

中村橋駅周辺まちづくり検討会

第6回 議事要旨

[日 時]

令和6年12月12日(木) 18時30分から20時00分まで

[会 場]

サンライフ練馬3階 研修室第一・第二

[出席者] (敬称略)

委員長 杉崎 (学識経験者)

委員 江村(商店会)、関口(商店会)、本橋(町会)、須藤(区民)、前田(区民)

オブザーバー 荻原(専門調査員)

ゲスト 伊東(練馬区立美術館)、花輪(平田晃久建築設計事務所)

谷本(平田晃久建築設計事務所)

[事務局]

地域文化部 大木

東部地域まちづくり課 藤本、松本、富本

美術館再整備まちづくり課 中山

美術館再整備担当課 稲永

光が丘図書館 澤田

[傍聴者] 1名

[議事次第]

1. 開会

2. 議題

(1) 美術のまち構想(たたき台)について

(2) 補助133号線沿線のまちづくりについて

[配布資料]

- ・資料1 美術のまち構想(たたき台)について()
- ・資料2 - 1 補助133号線沿線のまちづくりについて
- ・資料2 - 2 補助133号線沿線の現在の用途地域
- ・資料2 - 3 区内の16m前後の都市計画道路沿道の例
- ・アートマルシェ開催報告

(閲覧のみ)

1 . 開会

委員長	・ 本日は議題が 2 つあり、まず 1 つ目の美術のまち構想について議論をする。
-----	--

2 . 議題

美術のまち構想（たたき台）について

事務局	・ 本日は、アートを感じられるまちなみ整備の監修を依頼している平田晃久建築設計事務所にも参加してもらっている。 ・ また、美術館長にも参加してもらっている。
事務局	・ 資料 1 美術のまち構想（たたき台）について説明をする。 ・ 構想のイメージを共有するために用意をした。 ・ この資料については、まだ内容の固まっていない部分も多いため、本日は参考とし、会終了後に回収をさせていただく。 ■ 「はじめに」 ・ 美術館・図書館の再整備を機に、中村橋をアートなまちにしていきたいという構想の導入部分。 ■ 「美術のまち構想」 ・ だれもがアートを感じられるまちの実現に向けて、地域の皆様と一緒に考えながら進めていくために構想を策定。 ・ 将来像 1 は「まちのあちこちにアートなスポットがあふれている」、将来像 2 は「美術館・図書館を起点に新しい交流がうまれる」、将来像 3 は「アートを軸としたさまざまな活動がまちなかで行われている」としている。 ・ 昨年度まで開催していた美術のまち部会の方でいただいた意見を反映。 ■ 「将来像実現のプロセス」 ・ 将来像をどのように実現していくのかというプロセスを示している。 ・ プロセスとして、まちなみ整備の検討を委託している平田晃久建築設計事務所の提案を区でも検討し、「掘る・植える・咲かせる」という三段階のコンセプトを掲げた。 ・ 一つ目の「掘る」は、まちなみ整備に必要な人、もの、こと（まちなみ整備の素材になるような要素）を発掘するという段階。 ・ 二つ目の「植える」は、「掘る」で発掘した要素を基にまちに仕掛けを施し、次の「咲かせる」に繋がるような取り組みを実施していくという段階。 ・ 三つ目の「咲かせる」は、「掘る・植える」での取り組みを経て、まちにアートがあふれている状態になり、まちの魅力が高まっていくことを目指している。 ・ このような「掘る・植える・咲かせる」というプロセスを経て、将来像の実現に取り組んでいくことを考えている。 ■ 「将来像 1」

	・将来像 1 は、ハード面での整備になる。 ・駅を出た所や街中にアートなスポットが点在していて、まち全体がアートな雰囲気になるということを目指している。 ・具体的には、平田晃久建築設計事務所からの提案で、中村橋を訪れる人がまちを回遊することにより、美術館とまちとの間にコミュニケーションが生まれる「アート・コミュニケーション・コリドー」(以下「コリドー」と呼ぶ)の整備を考えている。 ・美術館とコリドーの相乗効果で、まちがより一層魅力的になっていくことを目指している。 ・コリドーは、まずは美術館と駅前広場と商店街を囲む最小範囲を設定し、アートを感じるようにして魅力を高めていく。 ・将来的には、この範囲も徐々に広げていき、まち全体がアートな雰囲気となり、まちの魅力が更に高まっていくことが理想だと考えている。 ・美術の森緑地は、美術館の再整備と一緒に改修をする予定になっている。駅南側の駅前広場は区が管理しているので、比較的いろいろな整備がしやすい場所であり、コリドーの重要な要素だと考えている。 ・中杉通りの商店街は、民間の土地になるため、できることも限られてくるが、何等かの整備をしていきたい。 ■「将来像 2」 ・建物にはシェードという特徴的な形状があり、その場所を活かしてイベント等の活動ができるようになっている。そのような施設の特徴を活かして、様々な人が交流できるきっかけの場となる事を目指している。 ・「人と人、人と地域がつながる仕組みを作ります」の項目は、美術館・図書館と地域をつなぐ、新たな担い手の育成や、場の提供を行う。 ・従来のような美術館の運営を支援してくれる人だけでなく、主体的にワークショップ等を企画したり、商店街と美術館の橋渡し役となる人材を育成する制度を設ける。 ・これは、前回の検討会でも少し触れた「アートコミュニケーター(仮)」を想定している。 ・また、図書館については、地域活動の発表や地域課題について考える場など、図書館が地域活動の拠点としての役割を担うことを考えている。 ■「将来像 3」 ・「アートを軸としたさまざまな活動がまちなかで行われている」の項目は、まずは「“商店街×アート”がコラボします」として、美術館・図書館と商店街が協働して、アートを軸とした新たな企画に取り組んでいく。 ・美術館が商店街と一緒に、まちを舞台にアート展示やイベントを行う。また、図書館と地域の書店等が、講座の共催や店主おすすめの本の展示など、相互のつながりを作ることを目指している。 ・「まち・人・アートの出会いを創出します」の項目は、日常的にアート活動が行われ、まち全体でアートを感じられるようにすることを目指している。
--	---

	・まち・人・アートが気軽に楽しく出会う場として、今年 9 月にも開催したアートマルシェ等のイベントを地域に定着させ、地域の方が主体的に参加して、まちとのつながりを一層強めることができることを目指している。 ・音楽や大道芸などもアートと考え、駅前広場などをアーティストやパフォーマーが活動できる場として提供できる仕組みを作っていく。 ・上記のような活動がまちなかで日常的に行われていると、まち全体がアートな雰囲気になると考えている。 ■「中村橋駅周辺のこれまで&これから」 ・中村橋駅が開業した 1920 年代からこれまでの間に中村橋で起きた大きなイベントを記載した年表である。 ・これからの出来事として、2024 年にはこの美術のまち構想を策定し、2028 年には新しい美術館・図書館がオープンを予定している。 ・その間に本日説明したような取り組みを進めることにより、美術館・図書館のリニューアル後も中村橋のまちにアートの花が咲き続けていることを目指しているという年表になる。 ・以上のような構想を策定するために、区では現在検討を進めている。 ・現状、たたき台の状態で検討中の部分も多くあるが、本日検討会委員の皆様と共有し、ご意見をいただきたいと考えている。
委員長	・平田晃久建築設計事務所から何か補足説明等はあるか。
平田晃久建築設計事務所	・美術館・図書館を設計している中で、この建物のテーマを富士塚と考えていて、建物自体がシェルフという棚と、それを包み込むシェードという階段状の底で作られている。 ・まだ社内で検討している段階なので、確定した案ではないが、その棚は単に本を置くだけでなく、何か作品を置いたり、その作品を見る人がいたりすることにより、棚自体で人との関わりが発生するという事を考えている。 ・そういう仕掛けをまちの中にも作っていけないかと考えている。 ・具体的には、練馬区とも協議を重ねないといけないかと思っているが、例えば屋台のような物であったり、区民の作品を飾る場所とか、その近くでくつろげる場所であったりというように「かわりしろ」のような場所をまちの中に作ってあげればと考えている。
委員長	・すごく抽象的でイメージが難しいのだが、まだ検討中で決定ではない部分も多いのだろうが、例えばこういう事を考えているというような案はないのか。 ・例えば、空き店舗を借りて、その中に棚があってアート作品が展示されているとか、アイディア程度で構わないので、具体的に想像できるような事があるとイメージを共有しやすい。
平田晃久建築設計事務所	・例えば、空き店舗や空き家を改修して、その中にアート作品を置いて、そこでカフェ的な感じで休憩しながら作品を見られるとか、美術館帰りの人がまちに寄って、コーヒーでも飲みながら語り合えるような場を作りたい

	とは考えている。
委員長	・委員の中には、この構想の話の本日初めて聞いたという方もいるかもしれないが、本日の説明を受けての感想、意見、質問等があれば聞かせてほしい。
商店会	・資料には、まちと美術館を結ぶコリドーという考えが書かれているが、コリドーの範囲を示すだけでなく、この通りをコリドーとして設定しているということが分かるように書いてほしい。 ・また、「美術館はこちら」という看板や、駅北口から線路沿いに美術館に行く道にも、歩道と車道の境にポールが立っているため、そういった看板やポールや街路灯等をアートの装飾するといいいのではないかな。 ・そういった装飾をしていくと、商店街を歩いていてもアートな雰囲気を感じられるのではないかな。
委員長	・先ほどの事務局から説明でもあったが、とりあえず最初は最小限のコリドーの範囲でいろいろ検討してみるが、今ご提案いただいたようなアイデアも、ゆくゆくはもっと広い範囲に広げていきたいという思惑はある。 ・そういう思惑も、思い切って構想の中にも書いてしまってもいいかもしれない。 ・昨年度の検討会でも、看板やポールや街路灯の装飾という話は出ていたと思う。 ・おそらく区が主導的に行っていくというと、そういった整備が一番やりやすいと思う。
町会	・道に特徴的な名前を付けるのもいいと思う。 ・大きな道だけでなく、小さな道にも単に「美術館通り」のような名前ではなく、特徴のある名前を付けて、来場者を誘導できるような仕掛けがあるといい。 ・駅前広場でのアートな整備を行う場合は、阿波踊り等でも使っているため、邪魔にならないように場所はよく検討しないといけない。
委員長	・道の名前については、ありがちな単調な名前ではなく、せっかくなので美術館をイメージできるような名前になるといいと思う。 ・まちの中の通りに名前を付けるというのは、結構大切なことだと思う。 ・最近は防災の観点からも通りに名前を付けて、近隣の消防署と共有しておくというのが有効的だと言われている。 ・災害時に〇〇通りと言えすぐに伝わるというメリットがある。 ・防災的なメリットもありつつ、美術館もイメージできるような名前が付けられるといい。 ・駅前広場での整備場所は、地域とよく話し合っていないといけない。
平田晃久建築設計事務所	・道に名前を付けるというアイデアはすごく良いと思う。 ・例えば、中杉通りと駅北側線路沿いの道をつなげる斜めの道は面白いと感じている。 ・まちの歴史を調査したところ、その道はちょうど貫井と中村の境になっている場所で、現在はそこが境だと気が付きにくいですが、昔は境という重要な

	場所だった。そういった場所を意識しやすいような仕掛けも面白いと考えている。
委員長	・道の名前については、公募とか投票で決めてもいいかもしれない。 ・プロが考えるデザインもいいが、その一部を地域みんなで作り上げるというのもいいと思う。 ・アートの質とのバランスが難しいが、そういった事を行っている所は結構あると思う。
委員長	・将来像の中でも、商店街に直接関わりが多いものと、商店街だけでなく、地域にお住まいの方も含めた全体に関わるものがある。
商店会	・アートなまちということで、道路にカラーリング等を施すということもいいと思う。 ・商店街としても、いろいろと協力をしていかなければならないと思うが、一方で営業に支障が出てしまうと厳しいという店舗は多いと思うので、その辺りを上手く両立できるような事があるといい。
委員長	・道の舗装についても、よくありがちなインターロッキングではつまらない。 ・美術館へ向かう道として、路面のデザインや看板等のサインのデザインも考えていかなければいけない。 ・そういった整備が整っていくと、区のコンセプトにも合致したような新たな店をやりたいという人が現れるかもしれない。 ・お土産なども、美術館の中で全て済ましてしまうのか、それともまちの商店街にも分散させるのかという議論もある。
事務局	・美術館が出来て、周りのまちを巻き込んでアートなお店が出来ていくということも長い時間は掛かるがあると思う。 ・例えば、東京都現代美術館はそうだったと思う。
区民	・アートインレジデンスのような形で、若手アーティストが作品を作ったり、ギャラリーのような感じで皆の作品を見せ合えたりするような活動をやっている場所もあるという話を聞いた。
委員長	・空き家をそのように活用をしている所もある。 ・普通に住む場合には遠慮されるような物件（例えば風呂無し物件とか）でも、作品制作の場が確保できれば若手アーティストが来てくれるケースはあるのではないかな。 ・また、空き店舗だと制作している所が見せられたりして、それもいいかもしれない。 ・天井の高い製作場の上階に人が住める空間があるというような、いわゆる昔の町工場のような物件があるとちょうどいいのではないかな。
区民	・以前、アーティストインレジデンスの作家としてやっていたことがある。 ・韓国、オランダ、新潟など様々な場所でやってきているが、東京でアーティストインレジデンスをやっている所というのは少ない。 ・都がやっている事例はあるが、区がやっている事例というのは本当に少ないと思うので、それを練馬区が先進事例としてやるとしたら、非常に意味

	のある取り組みだと思う。 ・若手の作家が生きていくのは厳しく、特にアトリエを都内で借りるとなると非常に厳しいので、少しでも支援をしてあげられると、若手作家からしたら大変ありがたいと思う。 ・また、コリドーの中に学校も含まれるとより良いのではないか。 ・地域の学校と美術館のコラボとか、この地域だけでなく区内の学校もまちや商店街に出て行ったりする機会があるといい。 ・美術館と学校と商店街の3者が関わり合っていけるような仕組み作りができるといい。
委員長	・必ずしも中村橋の学校だけに限定しなくても、周辺地域の学校とも連携してもいいし、もっと広く練馬区全体で学校と美術館の連携をしていますというような感じで、区内全体に広げていってもいいと思う。 ・将来的には、中村橋の事例を区内全域に広げて、練馬区は区民に開かれたアートをやっているという感じで、各地にスタジオ等があっても面白い。 ・コリドーの話だけでなく、将来像2・3について、このような制度があれば参加してみたいとか、こんな制度に参加したことがあるとか、そういった意見があるとありがたい。 ・例えば、アートマルシェのようなイベントも、本当は将来的にはあまり行政が関わらずに地域の人達が主体になって実行委員会のような感じでやってくれるのが理想だろう。
事務局	・将来的には、それが理想の姿だろう。
事務局	・現在は区がやっているが、イベントの自由度という観点からすると、区が主体になるとどうしても制限が出てきてしまう。 ・例えば、今年9月に開催したアートマルシェでも、暑い時期だったのでビールを出したらいいのではという意見もいただいたが、区がやっているとなかなか難しかったりする。 ・そういった意味では地域の方に主体になってもらった方がいろいろな事が出来て、より楽しいイベントになるのではないかなと思う。
委員長	・例えば、江古田ではイベントをやるとなると実行委員会が地域の有志で立ち上がったたりするが、中村橋ではまだ担い手がなかなかいない。 ・そういった人材をどうやって見つけて、育てていくのかという課題もある。
オブザーバー	・資料の年表では、美術館・図書館がオープンした後もアートなまちが続いていくような事を書いているが、この先もずっと続いていくための仕組み作りが大切なのだと感じる。 ・仕組み作りとしては、「アートなまち」をプロジェクト化して、設定目標を一つ一つ達成していくようなものにしてしまうのも一つの手段だと思う。 ・先ほど出た道に名前を付けるというアイデアや、貫井と中村の境の歴史の話なども掘り起こしながら、例えばそれを演劇にしてみるとか、アートで表現しますというように、一つ一つを企画で見える化する。 ・その見える化した企画を、まずは最小のコリドーの中で実験的にやってい

	くという事をやれば、面白いと感じた人達が集まってくるのではないかな。 ・区が場を整備しました、使ってくださいというような感じではなく、最初のリサーチ段階からさまざまな方々に参加してもらって、一緒に作り上げていくような仕掛けをするのがいいと思う。 ・アーティストにとっても魅力的なまちでないと、アーティストは集まってこないと思う。 ・アーティストインレジデンスをやるにしても、アトリエは小さいけれど、近くにすごく良い雰囲気のお店があるとか、まち全体で面白い事ができるとか、制作で困った時に美術館に気軽に相談できる仕組みがあるとか、そういった環境が整うと、面白いことをやってくれるアーティストが集まってくるのではないかな。 ・まずは最小のコリドーの中で小さく一つずつ始めるような形からでもいいと思う。例えば、まず1件空き家や空き店舗を借りて活用してみるとか。
委員長	・アートと言っても設置をして動かない物ばかりではなく、パフォーマンスであったり、そういった流動的な物も考えていけるといい。
オブザーバー	・もっと緩やかな方が、いろいろなアイデアが生まれてくると思う。 ・墨田区の例だと、商店街で更地になったところがしばらくそのままなので、何か活用できないかという話があった。そこにアーティストが卓球台を置きたいと言い出して実現し、卓球をやるだけでなく、朝食会をやるうとか、お茶を飲みながらくつろげる場所にしている。 ・そういったちょっとしたきっかけから、いろいろなつながりが出来ていくのだと思う。
委員長	・例えば、将来的に道路拡幅のための土地として区が買った空き地や、セットバックした所や、木造密集地の解消のために区が買った土地などを活用することも考えられる。 ・また、空き家や空き店舗でも普通なら使いにくいような物件でも若手アーティストからすると、安く借りられる物件なので都合がいいというようなケースもあるだろう。 ・逆にあまりちゃんと方針を決めていなかったり、整備をしていなくても、こんなのでいいのなら使う人いませんかと募集してみると、意外と人が集まったり、面白いアイデアが出てきたりする可能性もある。 ・いずれにせよ、放っておいても担い手は集まらないと思うので、区が積極的に動く必要があるだろう。
事務局	・本日お見せした物は構想なので、あまり具体的な計画のことまでは書いていないが、これを基にして具体的な取り組みを検討し、進めていく。 ・今後も本日のように地域の皆様の意見を聞きながら進めていきたいと考えている。

補助 133 号線沿線のまちづくりについて

委員長	・補助 133 号線について、千川通りから目白通りまでの区間は既に完成してお
-----	--

	り、千川通り以南と目白通り以北が今後都市計画道路を作る予定という状況。 ・ 今までの検討会では、この計画している 133 号線が開通した時に、車の通行についてどうなるのかという話はしているが、本日は開通後の沿道のまちについて議論をしたい。 ・ こういった道路を作る場合、単に道路を作るだけでなく、その沿道の使い方をどうするのかという事を再検討するのが一般的である。 ・ 道路には様々な機能があり、まず一つは新しい道路が開通するとなると、今までの狭い道路と違って車も自転車も歩行者も通りやすくなる。 ・ 今までの狭い道だと、できれば通行量は少ない方がいいし、沿道にあまり高い建物が建ってしまうと困るという状況だったが、幅の広い新しい道路になれば、通行量も増えるので、それに合わせて新しい使い方を考えようというもの。 ・ 例えば、高い建物を建てられるようにするとか、今までは住宅街だったので店舗もなかったけど、広い道路が通るので店舗も建てられるようにするとか、そういった議論がある。 ・ 二つ目は、防災面で災害時に火災が発生した場合、東京だと住宅が密集しているので、燃え広がる可能性があるが、広い道路があるとそこで延焼が止まるという機能もある。 ・ このような様々な機能が道路にはあり、せっかく新しい道路を作るのならば沿道の使い方であったり、防災面での機能などの議論をする。 ・ 補助 133 号線も、既に完成している区間については、完成に合わせて沿道の用途地域（簡単に言うと、土地をどのような使い方をしていいのかという事を定めたもの）を変更している。 ・ 今後整備していく予定の区間についても、現在は用途地域から変えるのかどうかという議論をしないといけない。 ・ 実際には、道路が整備されるのはまだかなり先の話ではあるが、新しい道路ができる時にはそのような議論が必要だということを踏まえて、本日は情報共有をしたい。 ・ 補助 133 号線は、将来開通した場合 16m の道路になる予定だが、本日の資料には区内の他の地域で 16m の道路の事例を載せている。 ・ まず一つ目は補助 172 号線で、元々第一種低層住居専用地域だった所に道路が開通して、第一種住居地域へ用途変更をしている。 ・ 第一種低層住居専用地域とは、低層の戸建て住宅が中心の住宅街で、基本的には静かに暮らしたいというイメージ。 ・ また、コンビニなどの単独の店舗も基本的にはできない。 ・ 店舗と住宅が一緒になっている併用住宅や学校などの周辺地域に住んでいる人達の生活に必要な施設は建てられるが、基本的には店舗は建てられない地域。 ・ 一方で、第一種住居地域になると、もう少しいろいろな物を建てることができるようになる。
--	---

	・補助 172 号線で言うと、沿道に 3 階建て程度のマンションとか比較的大きな建物を建てられるようになっている。 ・二つ目の補助 132 号線も、沿道が第一種住居地域になっているので、ファミリーレスやドラッグストア等の店舗も出来ている。 ・三つ目の補助 135 号線は、近隣商業地域になっており、更にいろいろな建物が建てられるようになり、建物自体のボリュームも大きくなっている。 ・例えば、事務所等の施設も建設可能になる。 ・四つ目の補助 156 号線は、現在用地買収中で道路としては未整備のものが、沿道の用途地域は変更している。
商店会	・補助 133 号線について、既に開通している部分は畑が多かったため、大きなマンションを建てたりできたが、今後整備予定の千川通りの南側については戸建て住宅が多いと思う。 ・その戸建て住宅の土地を買収して将来道路が開通した時に、中途半端に小さな土地が余ってしまうことが考えられるので、そういった土地を何か有効活用できるように考えないといけないと思う。 ・開通済みの部分については、元々畑でまとまった土地があったため大きなマンションが建ち、その 1 階に店舗が入ったりしているが、千川通り南側は条件が違うため同じようになるかは何とも言えないと思う。 ・新しい道路について、用途地域の話やバス交通の話などはしているが、沿道の建物や店舗についても重要な検討要素だと思う。
委員長	・今話のあったような中途半端な小さな土地と隣に元々ある土地などの複数の土地を合わせて、大きな土地として何か新しい物が出来たりするといいかと思う。 ・新しい道路が出来れば、デベロッパーが沿道の複数の土地を買ってマンションを建てるということもあり得るだろう。 ・いずれにしても、それ単体では使い勝手の悪い中途半端な土地というのは発生してしまうと思うので、それをどう活用していくかというのは、一つの課題だろう。
商店会	・中村橋駅に来ているバスは、現状だと転回場がないため街中をぐるっと回っている状況。しかも駅前のバス停は交差点の中にあり、これは暫定的なものと聞いている。 ・補助 133 号線が新たに開通すれば、バスのルートやバス停位置も改善されるだろう。 ・また、千川通り以南の中杉通りは、元々道幅が狭い所が相互通行になっていて、そこにバスまで通っているため非常に危険になっている。 ・補助 133 号線が開通すれば、南側の中杉通りは一方通行にしてもいいし、そうすればちゃんとした歩道を作ることもしられるだろう。 ・南側の中杉通りは、現状だと危険だからと歩行者に避けられているが、歩道ができれば歩行者も安心して通行しやすくなって、沿道の店舗にとってもいいと思う。
委員長	・以前の検討会でも、補助 133 号線開通後に南側の中杉通りの車両通行をどの

	ようにするかという議論はした。 ・その時には、一方通行にするとか、いっそのこと通行止めにして歩行者天国にしてもいいかもしれないという話もあった。 ・やはり新しい道路を検討する上で、中杉通りの車両通行のあり方についての議論は必須であろう。
町会	・バス交通の問題について、転回場所がないというのは大きい。 ・ただ、バスの転回ができるだけの場所を確保するのは、現実的にはかなり難しいと思う。 ・区には、とにかく早く計画を立てて動き出してもらわないと、空いている場所はどんどん無くなってしまう。
事務局	・バスの転回場については、区でも駅周辺の土地でいろいろなパターンを検討はしているものの、なかなかちょうど良い土地も少ないため進展していない状況。 ・ただ、区としてもバス交通の課題は認識しているので、引き続き検討を進めていく。
商店会	・バスのルートについても、現状は中村橋が終点になっているが、北側の川越街道の方まで行けるようになるとありがたい。 ・また、現状だと中村橋から東武東上線への直通経路がないため、バスで中村橋駅から東武東上線の駅にアクセスできるようになるといいと思う。

３．その他

アートマルシェ開催結果の報告

事務局	・今年度開催したアートマルシェの結果報告を行う。 ・今年度は 9/14、9/15 の 2 日間開催した。場所は美術の森緑地を使用し、パレードで中杉通りの商店街も使わせてもらった。 ・今年度は、美術館がまちに積極的に出ていくという趣旨で、「ねりび・あにまるパレード」と称して、緑地にてパレード用の動物仮装を作るワークショップを実施し、その動物仮装で商店街をパレードした。 ・また、貫井図書館もイベントに参加し、大人のためのお話会を開き、盛況だった。 ・その他に、アートマルシェに先立ち、事前にワークショップを開催し、子供達と作成した絵をガーランド（三角形の旗のような物）とステッカーにして、イベント当日に会場に装飾し、ステッカーは配布をした。 ・イベントの実績としては、美術の森緑地の出入口に入場者数を計測するカウンターが設置されており、そこから来場者数を出した。 ・1 日目は 2327 人、2 日目は 2087 人、合計で 4414 人の来場者があった。 ・皆様のご協力のおかげでイベントも大盛況となり、またパレードについても地域の皆様のご理解ご協力をいただき無事行うことができたので、この場を借りて改めてお礼申し上げます。 ・来年度も引き続きアートマルシェを開催していく予定なので、今後ご理解ご協力いただくよう、お願いする。
-----	--

	・来年度の企画は、現在検討を進めているところなので、企画が固まってきたら、また商店会や町会の皆様にはいろいろとご相談をさせていただく。
商店会	・他の検討会委員とも以前に話したことがあるが、商店街だけでなく学校も巻き込んでいくと、より盛り上がっていいのではないかなと思う。

事務連絡

事務局	・本日の議事録を作成し、出席者の皆様に確認をお願いする。 ・今年度はあと1回開催する予定。 ・次回開催日は未定だが、おそらく2・3月頃になると思う。
-----	--

以上